

食育だより

熊谷市立大幡中学校
食育担当
第9号

仮想水：バーチャルウォーターについて考えよう

「バーチャルウォーター(Virtual Water)」とは、食料や畜産物を輸入する消費国が、仮に自国でそれらすべてを生産するとしたときに必要となる水の量を推定したものです。これは、食料や畜産物の輸入を、水を輸入していることと同じと捉える考え方です。



食物は、その背景に多くの水を使用して作られるものがたくさんあります。たとえば牛肉です。牛肉の場合、飼育に使用した飲料水としての水のほか、国産牛であっても、えさとなるトウモロコシなどの輸入穀物がバーチャルウォーターの観点からは問題があります。

飼料によく使われる米国産のトウモロコシは、森林伐採をして畑を作り、機械を使った大規模農業です。広大な畑に山から水をたくさん引いて栽培されています。その量は、1kgのトウモロコシを生産するのに1,800Lの水が必要といわれるほどです。これらの水も牛肉を食べるために使われた水だと考えると、とても多くの水資源が使用されていることに気が付きます。さらに牛はこうした穀物を大量に食べて育つため、牛肉1kgを生産するためには、その約20,000倍の水である約20トンの水が必要なのです。



食品を通して多くの水が日本に

2005年において、海外から日本に輸入されたバーチャルウォーターの量は、約800億 m^3 で、その大半は食料によるものです。これは、日本国内で使用される年間水使用量と同程度で、東京ドーム約64,500個分にもなる莫大な量です。日本はバーチャルウォーターの輸入を通じて海外とつながっているので、海外の水不足や水質汚濁等の水問題は、決して日本と無関係ではないのです。



地球全体の水資源を大切にするためには、環境に配慮した食生活を心がけなくてははいけません。自分の好きな食べ物のバーチャルウォーターがどの程度ぐらいなのか考えてみてください。

目に見えない「水の大切さ」

今、地球温暖化で世界の各地で水不足が深刻化しています。世界には水を飲みたいときに好きなだけ飲むことができない人々もたくさんいます。国連の定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」の17の目標を達成していくうえでも「水」の問題は避けて通ることができません。



比較的、水資源の豊かな日本に暮らしていると、この水問題の切実さがなかなかわかりづらい面もあります。もちろん、みなさんは、普段から、水を大切に使っていると思います。この目に見えない「バーチャルウォーター」のことも決して忘れないでほしいのです。つまり、世界中の多くの人の労働と貴重な水を使って、私たちの食べ物は作られ、届けられているということ。大切な食べ物をむだにせず、地球環境に優しい食べ方を一緒に考えていきたいですね。